

2 0 2 6 . 7

さんりんしゃ

始良市立錦江幼稚園・園だより

PHONE 63-2038

FAX 63-2084

一枚の写真から・・・心の育ちのストーリー

視線の先にあるもの

園庭にある田んぼの端にちょこんと座り込んで、何を見つめているんでしょう!? 田植えの時より大きく成長してきた稲を見ているんでしょうか。彼の動きを観ているとそうではなかったようです。

す。子どもたちは、遊びの中でたくさんの不思議と出合っていて楽しんでいるんですね。でも、大人は何気なく、当たり前のように見ているので、「なんで?」とか「ふしぎ」とか思わないのです。子どもにとっては、初めてのことも多く、感性を揺さぶられるんでしょう。ある意味、大人の慣れからくる鈍感さかもしれません。私たち大人はよく、子どもたちに向かって「よく見てごらん」とか「しっかり見て」なんて声かけを無意識のうちにしているような気がします。子どもたちは別な言い方をすれば、私たち大人より鋭い感性で、ものを観ているような気がします。通り一遍の見方ではなく、子どもらしい視点や感じ方がそこにはあるんだということを忘れてはいけないと思います。ほんのチョットしたこと些細なきっかけが子どもの思考や行動に大きく影響を与えることを・・・。

観察眼の大切さと寄り添うことの奥深さを感じました。

実は、彼の視線の先には、水面（みなも）に映る自分の顔があったんです。指をチョコンと水面に触れると、水面が揺れて鏡のような水面がゆらゆら動いて表情が変わるのを楽しんでいたんです。大人からすれば、別に気にもとめないことですが、子どもにとっては、不思議なことだったり面白かったりするんですね。彼が何を感じ、何を思ったのかは、本人しか分からないことです。ですが、私たち大人は子どもらしい豊かな感性をつぶさないよう寄り添い、声かけすることが大事ですね。

自分たちの身の回りには、不思議がいっぱいあるんで



田んぼには、思いがけない生き物が・・・？。

この写真を撮ってくれたあや先生もはじめは田んぼの水遊びかな、何か見つけたかな・・・と思いながら観ていたといいます。

でも、指の動きや顔の表情などから、何か他のものを見てる、思ったそうです。それは、水面に映ったあつ自分の顔がゆらゆら揺れる様子だったと感じたそうです。その後、「顔がゆらゆら動いた?」と声をかけた。

歯と口の健康週間



金 賞

ゆり組 上村 みあ さん



銀 賞

ばら組 恒見 いおり さん



銅 賞

ばら組 田中 ほのか さん

入賞おめでとう

第78回「歯と口の健康週間」図画・ポスターコンクールが実施され、3人の子どもたちが入賞しました。おめでとうございます。のびのびとダイナミックに思いが表現されている作品です。幼稚園にも、加治木ロータリークラブ賞をいただきました。(^_^)



シャボン玉遊びで楽しんでいたら、いつの間にか泡だらけになっていました。吹けば吹くほど泡が湧いてきて、面白くてしょうがない子どもたち。これまた何だろうと思いきや、カニさんになった気分！で わたアメみたいな感じ？もういろいろです。

遊び・体験 と きっかけ

私の幼い頃の夏の思い出というと、朝の涼しい時間帯に出かけた昆虫採集と友だちとの川遊び。それから、日曜大工が好きだった父の手伝い。昆虫採集では、ちょうは、花だけでなく樹液に集まるちょうもいることを知ったし、川遊びは泳ぎや魚釣りのほか、友だちや兄ちゃんたちから楽しく遊ぶコツみたいなものを教えてもらった。遊びを通して生き物のことや命の尊さ、自分なりに危険を予知する能力の基礎を少しずつ身につけていったように思います。こんな遊びの体験が大人になった今でも生き続けています。特に昆虫採集、車のトランクには常に捕虫網が積んであり、珍しいちょうを見かけると追いかけてしまいます。父の手伝いの中で見てきたことを、実際の仕事の中でやってみることなど、子どもの頃にやった遊びや体験は、今の生活の中で何かのきっかけになっているような気がします。

みなさんは、子どもたちとどんな夏を過ごしますか。もしかしたら、幼い頃の体験がきっかけで・・・ということも・・・。

今しかできないことって、結構あるような気がします。そのうちそのうちって言っていると、時はあっという間に流れてしまいます。

さあ、重い腰を上げて子どものために、できることを家族で楽しむことが、いい夏の思い出に！



ストロー立て始めましたよ！何だろう？園庭が水浸しになって、砂浜みたいになったのでストローを〇〇アナゴに見立てて遊び始めたんです。すごい発想です。泥んこ遊びやブクブク遊び、砂場に限らず素材の生かし方で変幻自在の幼稚園の遊びです。子どもたちってすごい！です。